流通とＳＣ・私の視点

2011 年８月 13 日

視点(1433)

Ｉ Ｓaw All America（その 203）!!

― アメリカの７大過剰とは(その１）―

私は、アメリカは**「７大過剰国家」**と名付けています（六車流：流通理論)。

過剰とは、相対的比較（通常の客観性あるいは常識からの比較）から見て、必要以上に多いことを言います。アメリカの７大過剰国家の「過剰」は次の通りです。

①低所得者層が過剰
②ルーラルエリア（超田舎）が過剰
③食べる量が過剰（過食の食文化社会）
④消費のウェイトが過剰（過消費社会）
⑤経済のソフト化が過剰（過剰ソフト経済社会）
⑥ＳＣ業態の過剰（過度なＳＣ社会）
⑦郊外商業が過剰（過度なる郊外商業社会）

それぞれ説明すると次の通りです。

（１）アメリカは先進国家でありながら、貧困者及び低所得者が異常に多い（低所得者が過剰）

経済の発展は、未発展国の貧困者中心（消費で言えばプレモダン消費）から、中産階級化（消費で言えばモダン消費）へと進み、豊かな国民が形成されます。すなわち、日本や西欧の中産階級中心の国家がその例です。しかし、さらに経済が成熟化すると、階層社会となり、所得の２極化が進み、高所得者と低所得者に分かれて行きます。しかし、所得の２極化から派生した低所得者は、未発展時代の貧困者としての低所得者ではありません。成熟経済段階の低所得者は、自由裁量所得（自分で好きなものを選択できることが可能な低所得者）です。アメリカはさらに、南米やアジアからの移民やアフリカ系アメリカ人の貧困者も多く、これから豊かにならなければならない低所得な国民も多く存在しています。それゆえに、アメリカの消費は、モダン消費とポストモダン消費の混合したマーケットが形成されていることになります。

今､西欧諸国も経済の成熟化による所得の２極化と移民による貧困者の増大の２つの低所得化が進んでいます。ただ、日本の低所得化は移民が著しく少ないため、経済の成熟化による消費の２極化がもたらす自由裁量所得の高い低所得層のみです。

アメリカでは、低所得者が過剰に住んでいますので、価格重視の業態が異常に成立する潜在力を持っています。その意味では、まさにアメリカは**バリュー志向の業態**の宝庫です。

（２）アメリカは先進国でありながら、ルーラル（超田舎）が異常に多い（超田舎が過剰）

アメリカは、日本の 25 倍の国土面積に 2.5 倍の人口（人口密度は日本の 10 分の１）が住んでいます。それゆえに、世界一の先進国家でありながら、世界一の農業生産国家でもあるわけです。中国やロシアやインド等の巨大国土かつ後進国（？）に田舎が多いことかは当然ですが、世界一の先進国に超田舎が多く存在することは事例的に見て異常です。実は、ウォルマートはルーラルで圧倒的一番型のフルライン・ディスカウントストアを展開し、ルーラルの住民や低所得者をライフスタイル化して、今日の 40 兆円の売上高を誇る企業に成長しました。

アメリカは日本と異なり、人口が分散して居住しているため、同じ時間・距離圏（いわゆる商圏）の中に、人口が少ないため、アメリカは**小商圏商法**（少ない支持人口で１つの業態を成立させるビジネスモデル）が発展しています。いわゆる、成立基礎マーケット（いくらの支持人口で特定の業態が成立するのかを表現する数値的基準）が、日本の２分の１以下となっています。すなわち、アメリカは人口が日本の 2.5 倍でありながら、ＳＣ数は 10 万ヶ所、ＣＶＣを除くと４万ヶ所成立し、日本は 3,000 ヶ所です。確かにアメリカのＳＣは 30%以上オーバーストア状態ですが、日本は約 3,000 ヶ所のＳＣ数で、オーバーストア（？）と言われています。また、アメリカは、田舎が多いことから、通信販売（カタログ販売等）やネット販売等の無店舗販売も著しく発展しています。

（流通とＳＣ・私の視点 1434 へ続く）

(株)ダイナミックマーケティング社[+5]
代　表　六（む）　車（ぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2011 All rights reserved.